

憲法九条を守るわかやま県民の会」ニュース

NO. 92 09.1.22 発行「憲法九条を守るわかやま県民の会」事務局

県地評 Tel 073-436-3520 Fax 073-436-3554 E-mail w-chihyo@naxnet.or.jp

1. 18「憲法9条守ろう」宣伝・署名行動が県下各地で

1月18日(日)に設定された全県宣伝・署名行動は8郡市(伊都、那賀は17日)で取り組まれました。そのうち第1回分を紹介します。

伊都・橋本地域

43人で234筆 9条の会加入も7人

17日9時10分に3つの地域にそれぞれ集合して行動しました。橋本では19人の参加で72筆、高野口は7名の参加で69筆、かつらぎは17名の参加で93筆で、伊都・橋本全体では43名の参加で234筆の署名をとることができました。また、かつらぎではこの行動を通して7名の人が9条の会に加盟しました。

今回は事前に署名用紙やビラを配ってあったので、それを読んで既に書いて待っていてくれた家も数軒ありました。また、そうでなくてもビラを読んでいて、いろいろ意見を言ってくれる人もいました。そうしたことから、この方法は効果的だという感想が参加者から寄せられました。

那賀地方5地区で成功!

48人で483筆



1月17日(土)那賀地方では、旧5町(岩出、貴志川、粉河、打田、桃山)で実施されました。署名行動には、48人が参加し、署名483筆が集まりました。この一斉行動に際し、5つの「地域9条の会」では、会議を開き、署名する地区や団地を決め、その地域に対し、事前に宣伝と署名に回る旨の文章が入ったビラを手分けしてまいてくれました。当日は、ほとんどの家の人が快く署名をしてくれたり、事前に、署名用紙に家族全員分の名前を書いて待っていてくれた家もあったという報告もありました。また、当日は留守になるので、9条の会の役員の家へわざわざ署名を届けてくれる人もあり、署名を訴えればどんどん響きあい、この運動が広がっているという手ごたえを感じました。

和歌山市は8地域とJR和歌山駅前

141人で538筆

市内の本町・城北・雄湊、楠見、雑賀、和歌浦・名草、きし、ひがし、四箇郷、高松の8地域とJR和歌山駅前で行き組まれ、141人が参加し538筆の9条署名が集まりました。今回は、県地評、地区労の多くの組合員が参加しました。また、雑賀地域では2名の9条の会会員が増えました。地域の一部とJR駅前を紹介します。

本町・城北・雄湊地域

和歌山市教育会館に市教組、和歌山市水道労組、和歌山市年金者組合の方を含め、十数名の参加があり、本町地区を中心に五組のグループに分かれて署名行動に入り、13人で28筆あつまりました。

訪問先のある寺の方は「ジュリー(沢田研二さん)の歌にも9条の歌がありますよね」と話され、親しみを込めて署名に応じてくれました。また、ある女性の方は「しっかり頑張ってください」「私も大事やと思っています」と言って署名に応じてくれました。また、「私は、終戦時国民学校の4年生で、妹を背負って逃げた記憶があります」と話してくれました。ジョギングや犬の散歩をしている方とも対話ができ、署名に応じてくれました。

「憲法9条を守る和歌山弁護士の会」よびかけの共同宣伝行動に27人参加

午後1時から2時までJR和歌山駅前第6回「憲法9条を守る和歌山弁護士の会」よびかけの共同宣伝行動に27人参加しました。寒い中、午後から雨がぱらつき傘をさしての行動で残念ながら署名行動はできませんでしたが、宣伝カーからマイク演説をしながらチラシを配りました。月山桂弁護士をはじめ3人の弁護士が参加され、福祉・保育関係者9条の会の方がアコースティック伴奏でピースソングを歌い、楠見子連れ9条の会がゼッケンをつけた3人の子連れで参加し宣伝行動を盛り上げました。



海南・海草

52名の参加者 500軒訪問で227筆

52名が参加し、20グループに分かれ内海地区を訪問、署名は227筆集めることができました。事前に9条の会わかやまのパンフレット、署名用紙とビラを訪問する地域に配布しました。また、行動には署名推進の県代表委員の藤井穂住さん、地域の9条の会として「9条の会ふじしろ」のみなさんをはじめ、地域9条の会の準備会や「歌声9条の会」、地域の各団体や労働組合からも参加していただき、元気の出る取り組みになりました。参加者からは、自転車で通りかかった人が署名を出してくれた方、玄関に署名用紙を吊してくれていた方、はじめは分からないと言っていたが戦争反対の署名と話をすると協力しますと書いてくれた若い人、「とても大切な取り組みですね」と協力してくれた和歌山大空襲を経験した老夫妻、「寒い中ご苦労様です」とねぎらいの声をかけてくれた方など、署名行動で出会った地域の様子が出されました。新婦人に用意していただいたぜんざいで、参加者は行動から戻って冷えた体を暖めることができました。